

風の便り

Vol.2 No.12(通刊33号)

発生から今日で6年

あの時から6回目の「3月11日」が、また回ってきました。あの日、私は秋田県湯上市の職場にいました。大きな揺れが長く続いたのを憶えています。テレビでは津波の映像がながれていました。秋田県では昭和58年(34年前)に能代沖で発生した日本海中部地震(マグニチュード7.7)による津波で80名を超える方々がなくなりましたが、この中には遠足できた合川小学校の児童も多数含まれていました。その時の津波とは、とても比較にならないほどのものです。

東日本大震災では、亡くなった方や行方不明の方は2万7千人を超えています。幸いにも、東北6県の中で秋田県だけは亡くなった方は一人もおりませんでした。

しかし、ひとりのロータリアンとして、被災地をまわり、惨状を目の前にしたとき、「私に、なにができるのだろうか」という無力感しか感じられませんでした。ガバナーとして、地区内のクラブに義援金の提供をお願いしましたが、独自で支援活動を行うクラブも多々ありました。何もできない自分に苛立つこともありましたが、それ以上のことはできません。当時のガバナー会で被災遺児に対する教育支援のプログラムが提案されました。紆余曲折がありましたが、2011年11月にロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会が組織され、「ロータリー希望の風奨学金」の事業が始まりました。これなら「私にもお手伝いができるのではないだろうか」との思いで参加しました。上野操委員長(2580地区PDG/東京江戸川RC)の後を継いで2014年7月から委員長を務めておりますが、被災県教育委員会への奨学生の紹介依頼、教育機関への連絡、奨学生の申請書の受領と登録確認書の送付、毎年の在学証明書の提出依頼と確認、等々、時には津波のように押し寄せてきます。

しかし、奨学生や保護者の方々から、お礼の電話やお手紙を頂くと、身に余る思いと感じます。これも、ひとえに「ロータリー希望の風奨学金」にご支援くださる多くのロータリアンの皆様あってのことと感謝申し上げます。

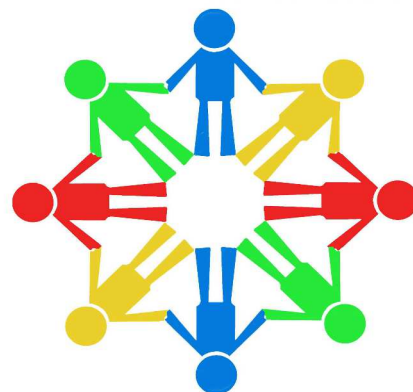
私たちの「ロータリー希望の風奨学金」プログラムは被災遺児やご家族にそっと寄り添って、静かに「希望の風」を送り続ける奉仕活動です。全ての遺児が進学の希望をかなえることを目標に粘り強く続けていきます。そして今、私の机の上には、新年度からの給付を待つ54名の新規登録者の名簿があります。

(文責：委員長/地葉新司/2010-2011PG/湯上RC)

ロータリアンは東日本大震災を決して忘れません

ロータリー希望の風奨学金

被災遺児に教育資金を



「ロータリー希望の風奨学金」は2011年3月11日に発生した東日本大震災で両親や片親を亡くした被災遺児やご家族にそっと寄り添って、「希望の風」を送り続ける教育支援を目的としてロータリークラブが2011年11月から立ち上げました。全ての遺児が進学の希望をかなえられるよう皆様のご支援をお願い致します。

Rotary  ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会